

1年SS 基幹探究 探究基礎Ⅱ 活動報告

◆日時 9月1日(火)～1月28日(木)の月・木・金曜日

◆場所 本校 教室・化学実験室・図書館・探究講義室

1学年探究科では、7月までの探究基礎Ⅰに引き続き、探究基礎Ⅱを週3回行っている。この授業では、課題発見力、仮説設定力、計画・実証力、考察力、表現力の探究活動に必要な5つの力を身に付けることを目標にしている。16人の少人数グループで、数学、地歴公民、理科、英語、国語の5教科に6時間ずつ取り組んでいる。1学期より長い時間をかけて、よりじっくりと探究活動を行うことができています。

数学では、 x^n-1 の因数分解をテーマに、規則性を調べた。証明の仕方として、数学的帰納法を新しく習った。具体的な数値を代入してデータを集めてから、仮説を立て、一般化して証明する、という研究を進めた。自分たちだけで法則を見つけ、それを説明、証明するのは大変だったが、数の奥深さを感じられた。

地歴公民では、前半は、シャーロック・ホームズシリーズから19世紀のロンドンを知る、と題し、本の内容と自分の頭の中、教科書の知識を結びつけながら、当時の社会情勢を学んだ。後半は、元号と史実の関わりについて考えた。元号が生まれた背景にも考察を巡らし、説得力のある仮説を立てることができた。

理科では、化学・物理・生物分野で、食品に使われている身近な物質、浮力、感覚器官の課題について2時間ずつ取り組んだ。レポートの書き方も教わり、一つの分野が終わるごとにレポートを提出した。実験が思うように進まない時もあり、難しかったが、実験計画を自分で立てる力、検証する力も付いた。



英語では、プレゼンテーションに取り組んだ。商品のプレゼンテーションでは、一見何に使用すればよいかかわからないような品物に、自分たちで使い方を考えて紹介し合った。その後、アメリカの大統領選や新型コロナウイルスなどの時事問題について調査を行い、ポスターにまとめて発表した。質疑応答もあり、英語で即興で話す力も必要となった。



国語では、研究書からエッセイまでの『源氏物語』の和歌の現代語訳を比較した。作中の和歌の修辞技法の訳し方、言葉遣いや表現などに訳した人によってどんな違いがあるのか、それによって受ける印象がどう違うのか考えることができた。さらに、文献の扱いや昔の人のものの見方も学んだ。

目標となっている5つの力以外にも、情報収集力、多角的に物事を見る力、協働性など、発展探究をしていく際に必要な力を養うことができています。また、2年次にどの教科でどんな探究活動を行うのか、考える参考にもなっている。提示される課題は、易しくはなく、簡単にゴールにたどり着けるようなものではない。しかし、

いろいろなアプローチをして仲間と議論しながら答えにたどりつけたときは、うれしく感じる。今まで知らなかったことも学べて、各教科の面白さも改めて実感できた。自分の考えを整理して、他の人に伝える力も大切だと感じた。今後も、“探究力”を高めていきたいと思う。